

令和6年度第1回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議概要

○日 時：令和6年7月22日（月曜日）13時30分～15時40分

○会 場：鶴岡市役所6階 大会議室

○会場出席者：鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 11名

武田 真理子委員長、佐藤 健委員、宮田 廣喜委員、高橋 俊一委員、
太谷 弘子委員、高橋 治郎委員、清野 康子委員、渡邊 健委員、
田村 廣実委員、市川 美穂委員、遠藤 敬委員、

○市側出席者：市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局27名

幹 事：伊藤 慶也市民部長、菅原 青地域振興課長、加藤 明防災安全課長、
藤澤 実環境課長、玉津 卓夫廃棄物対策課長、
齋藤 芳地域包括ケア推進課長、阿達 和夫消防本部警防課長、
今野 新一学校教育課長、沼沢 紀恵社会教育課長

事務局：コミュニティ推進課、地域庁舎総務企画課職員18名

○公開・非公開の別：公開

○傍聴者の人数：0人

（13時30分 開会）

1 開 会

（全体進行：コミュニティ推進課長）

2 挨 拶

（挨拶：委員長、市民部長）

3 委員紹介

4 副委員長の選出について

宮田 廣喜委員を副委員長に選出

5 報告・意見交換

（座長：委員長）

（1）第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の評価に係る

「ふり返しシート」調査報告 詳細版 資料No.1

「ふり返しシート」調査報告 概要版 資料No.2

行政施策の取組状況（令和5年度） 資料No.3

（事務局）資料No.1 からNo.3 までを説明

（A委員）

ふり返しシートの回答率が低く、鶴岡地域の単位自治組織247団体のうち50団体も報告していない。催促しないのか。総合交付金を減らすとかペナルティーをかけても良いのではないか。

今回のテーマ「女性の活躍の場云々」とある。女性の割合は増えているが、30代50代以下の女性の割合が減っている。女性が増えている要因があれば、うかがいたい。

（事務局）

昨年度のふり返しシートの鶴岡地域の回答件数が156件であり、回答率63.2%の状態から、80.2%に上がっており、記載内容が豊かであれば良いと思う。女性の割合が増えた要因は、防災や福祉の分野に女性の視点を入れたくて、役員をお願いした事例が報告されており、平日、

自宅に残っている女性を町内会で見つけ、一本釣りしているようだ。

(A委員)

若手も同じで一本釣りで見つけるのか。回答率については、100%なるように努力していただきたい。町内会連合会の中でも促したい。

(B委員)

昨年と比べて藤島の単位自治組織の回答率が20%ぐらい下がっていることと、鶴岡地域の広域コミュニティ組織について、無回答が6件あることが気になった。

5年度のアンケートでは「取り組んでの効果」という項目が追加になったため、効果について考えた時に記載に迷ったり、提出しない組織もあったのではないかなと思う。

また、C委員から自己紹介時に話が合ったが、他地域の成功事例は、類似した課題で困っている地域に紹介してもらいたい。

(C委員)

個人的には、16ページの女性の会によって写真冊子・小さな里山の物語を発行したという事例、21ページの住民がスマホフォトイベントを行った事例、運動会でドローンを飛ばした事例、24ページのウォークラリーを行って神社仏閣を巡ったなどの事例が興味深いのもっと具体的内容を知りたい。アンケートとして羅列的にまとめるだけではなく、面白い事例は丁寧に取材して、良い取り組みとして紹介し、広報していくことが必要だと思う。素晴らしい事例の掘起こしをコミュニティ推進課に期待したい。

併せて、ウォークラリー大会などの事例紹介を、なぜ匿名化するのか。良い実践はリアルに伝えて各自の励みになるようにすべきだ。

逆に担い手がいない等の課題の記載はそれぞれで解決すべきことであり、並列的に取り上げる必要はない。優れた取り組みを中心に具体的に紹介して欲しい。

(委員長)

このふり返しシートが何のためにあるか。ふり返しシート自体は、各地域で自分達の歩みや課題等を抽出し活用するために、ビジョン策定とあわせて進めている施策である。この報告書を何のために作り、どうやって活用するのかということのご意見であると思う。集まった情報を共有し発信して、相互交流ができるようにということだったが事務局から何かあるか。

(事務局)

どこの組織が取り組んだことか記載した方が良いのではないかと考える一方で、複数の組織が類似の取り組みをしている場合も多くあるため、組織名は載せていないが、今後再度検討していきたい。

また、事例の共有については、まち活通信を発行しており、3、4団体しか紹介できないが、少しずつ広めていきたい。今年度のまち活通信は、秋ぐらいの発行予定である。

また、B委員からの質問で、無回答が6件あるのは、鶴岡地域の市街地には広域コミュニティ組織が6組織あるが、自分たちが頑張ったことを優先して答えたいと、ふり返しシートの様式を若干変更しており、本来は加算すべき件数を加算しなかったことによるものなので、後程、正しい数値に修正したい。

(委員長)

C委員の意見には、良い事例や取り組みを周知し発信したい、という思いがある。情報の取扱いはもちろん、当該団体への了解が必要である。共有し活用できるように検討願う。

(D委員)

広域コミュニティ組織の運営は、行政からの交付金をいただいて運営しているが、交付金のみならず、自主運営ということで事業を行い、自己資金を得ているコミュニティ組織があれば、どんな事業を行っているか、教えていただきたい。

また、概要版の中に後継者の育成で藤島地域が、「関係団体との連携を強化しながらも諸事業に女性や若者の声が反映できるように新たに団体枠を募集した」と記載がある。結果的にどういう団体であったのか、この2点教えてほしい。

(事務局)

広域コミュニティ組織の収入源の大きなものは、市からの交付金と、会員世帯からの会費である。この他、自主事業として、特産物の加工販売や見学受入れ時の資料代、ガイド代等で収入を得ている組織もあるが、高収益とはなっていない。

2つ目の質問については、藤島地域の渡前地区に女性の会で「わたげの会」という組織が立ち上がり、地域のイベントにおいて、子供達に参加賞として手作りのお菓子を配布したり、芸術文化祭の餅つき大会を手伝ってもらった。年代が20代から50代と幅広いため「女性や若者の声」という表記になっている。

(2) グループ討議

資料No.4

(事務局) グループ討議の目的を資料により説明

①女性や現役世代が参加しやすい環境づくり

(Aグループ)

女性や若いお父さんが、子供と一緒に参加してもらい、子供を楽しませていくための仕事として役員への声掛けをすれば参加しやすくなる。

もう1つは、「見える化」。様々な場所で「見える化」と言われている。例えば福祉部長を頼んだ時に、どんな仕事をするか具体的な役割が示されると引き受けやすい。

また、越沢地区の例のように「地区の四季のカレンダーをつくる」という具体的な仕事を示すと「その仕事ならばできる」として受け持ってもらえる。つまり、「役職」を引き受けてもらうのではなく、「具体的な仕事」を示して「見える化」を図る。

(Bグループ)

1つは「子供OK」にすると書いた。共働きの方も多く、土日だと逆に忙しい。平日夜の集まりだと子供をおいて参加できないが、「子供OK」となればコミュニティセンターの隣の部屋やスペースで、子供は自由に遊んでいいよ、お風呂上がりのパジャマでもいいよ、であれば子供も楽しんで来てくれる。

もう1つは、飲食できる楽しさ、魅力ある集まり、と書いた。子供、女性だったらコーヒー、ケーキとか、男性だったらお酒と仕出し弁当、これだと私の父も嬉しそうに参加していた。

ケーキを用意するのにお金がないという話もあるが、市の補助金ではなく、コミュニティ組織内で分かち合うのもいいと思う。年齢が上の方からは少し多くいただき、現役世代、女性、これからの人たちが集まって話し合う場に投資する。例えば、年500円を集め、飲食代として予算化すれば、みんなでその地域を支えていこうという意識の醸成に繋がるのではないかな。

(Cグループ)

働いている方もいるため会議の開催が夜間になる。会議招集では開始時間だけでなく、終了時間も明記すれば参加しやすくなるという意見がでた。ただ、夜間の会議では、逆に女性が家事の都合で出席できない。

また、町内会役員の依頼で、代表として世帯主の方に話を持っていくと、世帯主が役員になってくれるため年齢層が高くなる。具体的に息子さん、お嫁さんをお願いする、という声掛けをすると改善すると思う。

②課題解決に取り組むための新しい連携の在り方

(Aグループ)

地域の中で得意・特技のある方を発見して、その方を地域に紹介して、それをイベントに繋げていく。例えば、趣味で何かを作っている人や植物に詳しい人など発掘する。特技と言えば、YouTuber も含まれる。

もう1つは、外国人と繋がる。例えば、田川地区でおみこしを担ぐ人がいない時に、様々な方をお願いしたことがある。外国人は、日本全体を京都と思っている人もおり、「おみこし担げるよ」、という情報発信で外国人と繋がることもあると思う。鶴岡に来てもらい、鶴岡を知ってもらうということにも繋がる。YouTuber などを通して外国人と繋がるのは可能性のある連携だと思う。

(Bグループ)

1点目は、町内会の草刈りとかアメシロの件。後継者不足と言われるが、役員の負担が大きすぎる点からも委託に出す。

2点目としては、今日のアンケートの結果にもあるが、SNS がかなり利用されており、自治会内でLINE グループを組み、瞬時の情報共有を図るのも良いと思う。

(Cグループ)

中央高校の福祉系列の学生からコミセン・学区内の町内会に来てもらい、お年寄りとの交流をしてもらっているので、教育機関を利用することも良いと思う。

また、行政機関からも、草刈り機を持っている町内会に対して仲立ちする声掛けとか、市防災安全課からは、町内にある民間の施設を一時避難所にする声掛けをしてもらっている。他機関を利用するのは、町内会単位では難しいので、行政機関から声掛けがあるとありがたい。

地域振興には、「よそ者」「若者」「バカ者」の3者が必要。私が住んでいる地域も、移住してきた「よそ者」から課題解決のために様々な意見を出してもらい、取り入れた。

また、古い人間だと昔の考えに固執するが、「若者」は、新しい新風を巻き起こしてくれる。

最後の「バカ者」は、自己犠牲のもと地域おこしのために頑張ってくれる。古い体質から脱却し、新しい地域振興を行うために、この3者の人が大切だと思う。

それから、限界集落、継続困難地域とあるが、隣同士の集落と力を合わせ、得意分野のある人に役員になってもらうことも必要である。

行政からのトップダウンではなく、ボトムアップ的に周知して、地域住民の声を吸収し、運営していくことも大切だと思う。

(委員長)

総括として一言申し上げる。

例えば「見える化」。地域コミュニティ組織が何をしており、どういう役割なのかがわかりにくい。わからないから、参加しにくい。また、現役世代だけでなく、祖父母も孫の面倒を看なければならず、日中動けない方もいる。子供が参加できるとなれば、変わってくる。

地域の中に連携できる人がいる、特技を持った人がいる、どういう機関や企業があるかを見つめ直すことも大事だと思う。

(3) その他

(C委員)

委員の中には、多様なノウハウやアイデアを持った人もいる。この会にそのような「企業の論理」を参考にしていくことも必要と思う。新たな価値を取り入れながら地域コミュニティ基本方針、地域コミュニティ推進計画の見直しに役立てていきたい。

6 閉会 (15時40分)